

大和市民劇団養成プロジェクト「演劇やまと塾」発表公演

大和 爛漫

～和子の四季・桜の樹の下で～

脚本●錦織伊代 演出●田中信也
アドバイザー●横内謙介



制作 大和市「文化芸術による創造のまち支援事業」実行委員会
主催・企画・製作 財団法人大和市スポーツ・よか・みどり財団

キャスト&ひとこと

365日
100%元気な
相澤母さん

Aizawa Takako

ドレミファソ
音楽と笑顔の
永遠のアイドル?相澤 孝子
通称 ひめま

Rockな者



Asada Yoshito

よく見ると
つながってるよ
太い眉浅田 佳雄
通称 よしお見たままの
矢沢ツッパ

Anzai Toshiharu

I love you ok?

安齋 俊治
通称 とし善良な
大和市民

Iie Miko

付き合えば
付き合うほどに
面白い井手 美枝子
通称 みすず

大和の青春

アドバイサー
劇団扉屋主宰
横内 謙介

演劇に出会い、夢中になり始めた高校生の頃、私は大和に住んでいた。夢中は瞬く間に熱中に変わり、大学に進んだ頃には劇団まで旗揚げしてしまった。しかしその頃、芝居で生きていくことは遠い夢だった。青春の終わり頃、大好きな演劇とも別れなくてはならぬ日が必ず来るのだ、と思っていた。そんな私が45歳になった今、演劇人として大和に帰り、大和芝居の起ち上げに立ち合っている。これはちよつとしたフアンタジーだと思っている。公演のために集まった人々は、今まさに劇団の旗揚げを迎え、実年齢を忘れてすっかり青春の真っ直中だ。その姿もあの頃の自分を思い出させてくれる。

彼らが生み出したこの夢が、この大和で大きく膨らんでいくのをしっかりと見守りたい。

ごあい

公演おめでとう
ございます!!脚本
脚本
錦織 伊代

初めてやまと塾の皆さんにお会いした時、とてもパワフルで個性的な印象を受けました。何よりもすぐ楽しくそうで、そんな皆さんに相應しい脚本を書こうと、取り組ませて頂きました。

いい事だけではない、思い通りにならない事の方が多い世の中だけど、できる事なら皆にいつも笑顔でいて欲しい。そんな事を思いながら、家族や友人、大切な人達に感謝する気持ちを込めて書きました。書くにあたって、皆さんの「大和」に触れさせて頂いたので、「大和」の事を考えすぎて今では第2の故郷の様に思えてきます。

この演劇やまと塾に関わった方々、観に来て下さった皆様の思いが一つの大きな和になって、素敵な舞台になりますように!! 「大和爛漫」の言葉通り、光輝いてください!!

なまけもの?



Ogura Keiko

いつまでも
子どものままでいるようだ
(いいのかコレで!)小倉 敬子
通称 けい

ツツーっ



Kobayashi Seigo

いつまでも
若く楽しく
暮らしたい小林 誠興
通称 せいちゃん川向こうの
織姫

Kobayashi Chihito

織姫が恋に焦がれて
川越えてまほろば大和に
めぐりあい...感謝小林 千穂
通称 ちほ大和の
いっばん市民

Saiboh Shinjiro

やまと塾
大和をいっばい
盛り上げる齋藤 信次郎
通称 しんじろう何にでも
興味のある人

Uehara Keiko

太めだけど
笑顔が素敵な
お母さん上原 慶子
通称 けいちゃん

人間一



Sakai Fumiyu

やまと塾
気合を入れて
がんばるぞ坂井 文也
通称 フミヤ女優?
アウトレス?

Satake Ikuko

おばかさん
私はおばか
でも好きよ佐竹 育子
通称 いくちゃん遅れてきた
フリンス

Sawafuji Aisuo

やまと塾
続くと良いな
これからも!澤藤 厚男
通称 あつお

おばさん



Sorimachi Hideo

老ひてなお
新しきこと
するおばあ反町 日出子
通称 ティちゃん鳥に
なれた人間

Sakai Kurumi

ミュージカル
それは私の
幸せよ坂井 くるみ
通称 くるちゃん

しげる (10) 過去の小学生 (山北淳也)

第3幕(秋)「集い」 1996年

1996年の秋。

和子50歳。小学校時代の同窓会が行われた帰り、8人の女が夜の神社にやってくる。卒業時に皆で埋めた「宝物」を掘り出すためである。しかし、困ったことに誰も埋めた場所を覚えていない。曖昧な記憶を頼りに、それぞれ探し始めることになる。子供の頃の思い出話、現在の生活のこと、宝物を掘りながら会話に花が咲いていくが...宝探しを通して、それぞれが過去の自分と対面し、これからの人生に希望を見出ししていく。

和子 (49) 通称 和ちゃん。(原 京子)

陽子 (50) 通称 陽ちゃん。同窓会幹事。(佐竹育子)

幸子 (50) 通称 さっちゃん。中学校の国語の教師。

広子 (50) 通称 広ちゃん。セールスレディ。(山口優子)

明子 (50) 通称 明ちゃん。お嬢様育ち。(上原慶子)

光子 (50) 通称 みつちゃん。チェーン店の井田屋の店長。(小林千穂)

祥子 (50) 通称 祥ちゃん。デパート勤務。(長澤純子)

信子 (50) 通称 信ちゃん。料理研究家。(井手美枝子)

警察官 (32) (山本伊織)

第4幕(冬)「結婚」 2006年

2006年の冬。

和子60歳の誕生日。和子は近所に住む哲也に連れられ神社にやってくる。そこには家族や友人達が集まっていた。驚く和子に友人の幸子と陽子はおめでとうと言う。皆、和子の還暦を祝いに来たのだ。皆に祝福される和子。しかし、この還暦のお祝いには、さらに和子を驚かすビッグイベントが企画されていたのだ...

和子 (60) (星野俊江)

明夫 (63) 和子の夫(小林誠興)

由美子 (40) 和子の娘(小倉敬子)

誠 (40) 由美子の夫(澤藤厚男)

美咲 (12) 由美子の娘(山下智代)

大樹 (10) 由美子の息子(齋藤信次郎)

久美子 (35) 和子の娘。由美子の妹(姫野雅子)

幸子 (60) 和子の昔からの友人(水野昂子)

陽子 (60) 和子の昔からの友人(佐竹育子)

哲也 (42) 由美子の幼馴染。陽子の息子(浅田佳雄)

明美 (38) 哲也の妻。(山元潤子)

かずこ (12) (坂井くるみ)

...ほか...

ドクター
スラング
あられちゃん



長澤 純子
通称 シュン

人です



中川 智絵
通称 ちえ

すぐ顔
まっがっ...



塚田 由美
通称 ゆみ

好きな事には
一直線!



高橋 久恵
通称 ヒサエ

まるで
セトモノ?



高橋 喜和子
通称 きわ

大きな声
いつもニコニコ
元気です

ふふふ、
いえーい!

なまけもの
ぐずぐずおんな
とろむすめ

Love will find away

いろんなことがあったけど
とにかく今は
猛ダッシュ!

曲者

実は
スパイです

とりあえず
人間...

不熟者の国
のアリス

若いつもりで
生きてます

荷をおろし
遊ぶやうし
姥核

いつだって
今が一番
若いとき

昔マチルダ
今はドム!!
(バクリでゴメンね)

わたしはね
やまとじゅくの
はなになる

怒ってる?
ううん全然
だからあ!

水野 昂子
通称 タカコさん

星野 俊江
通称 ミリちゃん

姫野 雅子
通称 Hime

原 京子
通称 ハラキョウ

箱崎 淳
通称 あつし

図書館で働く女

酒の飲みない
九州男児

宵のびろ〜!!
...と眠ってる人

アンドし?

ふつうの
人間

宝塚
おお 宝塚 宝塚

やまと塾
サッカー同様
楽しいな

夜がだめ
9時になったら
もう眠い...

人見知りをする
ので、皆様よろしく
お願いいたします...

めざすのは
歌って踊れる
図書館員

山本 潤子
通称 ちたう

山本 伊織
通称 いおり

山下 智代
通称 ちよん、山P

山口 優子
通称 ゆうこりん

山北 淳也
通称 ヤマキ

田中 信也

演出 演劇やまと 事務局代表

皆様へ

1年のうち365日、4時間睡眠の朝
3時起きで仕事に行き、夜8時過ぎに
稽古場に到着。皆に謝りながら、疲れた
顔も見せず稽古に参加している方。ご
家族に不幸があつて、一旦は出演を辞退。でも、その悲しみを
乗り越えて、舞台上に臨んでいる方。ご家族のために、滅茶苦
茶がんばっているのに、そのことをいっさい見せず、常に笑顔
で稽古場を明るくしてくれている方。来年受験を控えて、
本当なら演劇なんてやめている場合じゃない方。この公演の
ため、2ヶ月間、太田先生、太田先生、太田先生。書き出し
たらキリがない程のドラマを持った塾生29名。皆さんとの稽
古は刺激的で、とても幸せな時間でした。

29名の1年間を支えてくれた、ご家族、ご友人、恋人、仲間、その他たくさんの方々、そして、この劇場まで足を運
びいただいた観客の皆様、心からお礼申し上げます。
関係者全ての皆さんにとって、素敵な時間になりますよ
うに。

大和流芝居

開花宣言

財団法人大和市入水スポーツセンター財団理事長
大和市文化芸術による創造のまち支援事業実行委員会
実行委員長 古川 精一



式といえる。だが「劇団誕生」とは考えていない。公演の成果次第だ。
最近の演劇作法は出演者の人生、個性、夢つまり過去、現在、未
来をヒントに再構成しそれを芝居化していく方法が主流だ。「大
和爛漫」もその手法を探っている。だから課題は普遍化だ。「大和
爛漫」の真の成功は普遍性により何処でも誰にでも通用する芝居
にまで昇華できるかどうかだ。

主人公和子の最後の科白のように皆様にもまた、この街大和を
愛して下さればと密かに願う。仲間たちのこの一年の汗と泪の結晶
に惜しめない拍手喝采を贈るうではないか。さあ開幕そして出番だ。



皆様へ

演出 演劇やまと 事務局代表

【登場人物】

第1幕(春)「花見」 1994

1994年の春

大和のとある神社の境内で、会社の仲間同士によるお
花見が行われていた。幼馴染である哲也と和子の娘、
由美子も参加していたが、そこで哲也はいつもとは違
う由美子の様子に気づく。いつもは憎まれ口ばかり叩
く由美子が、おとなしいのだ。そんな中、元同僚で、仙
台の会社に転職した誠がやってくる。わざわざ仙台か
ら花見にやってくる誠に、哲也は驚くが...

由美子(28) 大和市内の会社に勤めるOL。(塚田由美)

哲也(30) 由美子の幼馴染。同僚。(箱崎 淳)

誠(28) 由美子の婚約者。哲也の元同僚。(山本伊織)

徹(30) 哲也の同僚。親友。(浅田佳雄)

佐々木(39) 由美子と哲也の上司。課長。(安齋俊治)

さなえ(35) 佐々木の妻。由美子の先輩。(相澤孝子)

直美(28) 由美子の同僚。親友。(高橋久恵)

智子(26) 由美子の後輩。(山元潤子)

和子(48) 由美子の母。(原 京子)

第2幕(夏)「日記」 2006&1998

時は流れ、2006年の夏。

由美子と夫は二人の子供を連れて仙台から大和に戻つ
てきた。その日はちょうど阿波踊りが行われる日。町中
が阿波踊りで盛り上がり、中、娘の美咲は一人神社
にやってくる。美咲は転校で仙台の友達と別れたことが
ショックで落ち込んでいたのだ。弟の大樹もまた、姉
を探しに神社にやってくる。大和にやってくるばかりの
姉弟は不安を隠しきれない様子。そんな中、美咲は引
越しの最中に見つけた祖母の日記を読み始める。それ
は1958年、祖母和子が美咲と同じ12才の頃に書い
たものだった...

【2006年】

美咲(12) 現代の小学生。由美子の娘。(山下智代)

大樹(10) 現代の小学生。由美子の息子。美咲の弟。

和子(59) 美咲と大樹の祖母。由美子の母。(反町日出子)

【1998年】

かずこ(12) 過去の小学生。(坂井くるみ)

よつこ(12) 過去の小学生。(中川智絵)

みよこ(12) 過去の小学生。(高橋喜和子)

たけし(0) 過去の小学生。(高橋喜和子)

大 和 爛 漫

作曲 吉川 みちる

STAFF

主催・企画・製作◎財団法人大和市スポーツ・よか・みどり財団